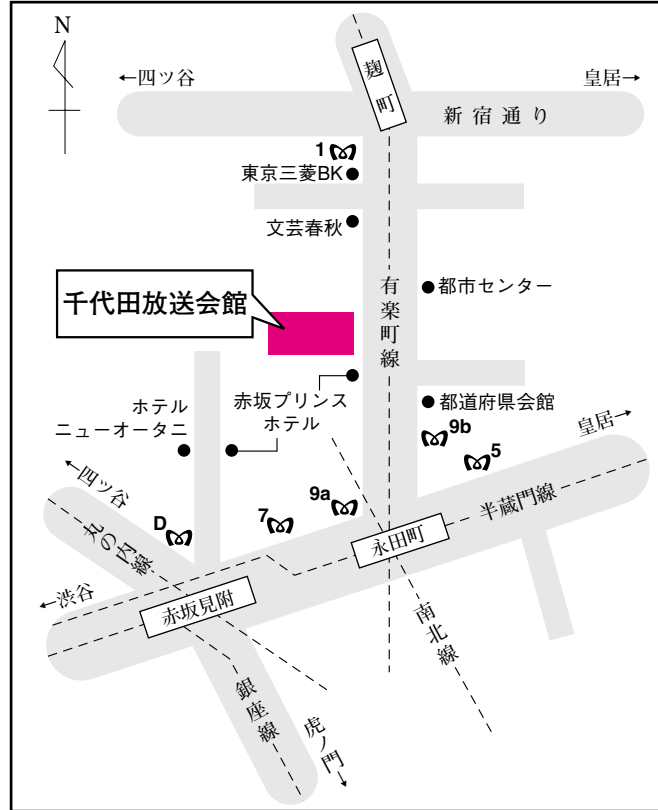


メインテーマ: 「通信と放送が生み出す未来」

12:30~	受付
13:00~13:15	開会挨拶 (財)情報通信学会会長 伊藤陽一
13:15~15:15	第1パネル・ディスカッション 「通信と放送の融合・連携： フレームにおける可能性」 パネリスト 飯塚久夫 NTTラーニングシステムズ社長 上瀬千春 フジテレビ役員待遇デジタル技術推進室長 木村 純 松下電器産業eネット事業本部長 中田 睦 総務省大臣官房審議官 (情報通信政策局担当) 成毛 眞 株式会社インスパイア代表取締役社長 コーディネーター 鈴木祐司 NHK放送文化研究所主任研究員
15:15~15:30	休憩
15:30~17:30	第2パネル・ディスカッション 「通信と放送の融合・連携： コンテンツにおける可能性」 パネリスト 白石 草 OurPlanet-TV代表理事 高垣佳典 USEN取締役コンテンツ事業本部長 土屋敏夫 日本テレビ第2日本テレビ事業本部 エグゼクティブ・ディレクター 横沢 彪 吉本興業前相談役 コーディネーター 菅谷 実 慶應義塾大学メディア・コミュニケー ション研究所教授
17:30~	閉会挨拶
17:45~	懇親会 千代田放送会館1F「ラウンジ千代田」



千代田放送会館

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町1-1  
TEL: 03-3238-7401

■アクセス■

- ◇地下鉄麹町駅（有楽町線）1番出口から徒歩5分
  - ◇地下鉄永田町駅（南北線・有楽町線・半蔵門線）各出口から徒歩約2~8分
  - ◇地下鉄赤坂見附駅（銀座線・丸の内線）D番出口から徒歩約9分
- ※駐車場はありません。

第23回  
国際コミュニケーション・フォーラム

メインテーマ

「通信と放送が生み出す未来」

2006年11月13日(月)  
13:00~17:40

会場 千代田放送会館  
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町1-1

- 主催 財団法人情報通信学会  
共催 NHK放送文化研究所  
後援 東日本電信電話株式会社、西日本電信電話株式会社、富士通株式会社、日本電気株式会社、日本電信電話株式会社、パナソニックモバイルコミュニケーションズ株式会社、株式会社日立製作所、財団法人国際通信経済研究所

## 開催要領

名 称 第23回国際コミュニケーション・フォーラム  
開 催 日 時 2006年11月13日(月)  
会 場 千代田放送会館  
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町1-1  
メインテーマ 「通信と放送が生み出す未来」  
第1パネル・ディスカッション  
「通信と放送の融合・連携  
：フレームにおける可能性」  
第2パネル・ディスカッション  
「通信と放送の融合・連携  
：コンテンツにおける可能性」  
参加予定人数 200名  
参 加 費 無料(事前登録制)  
懇 親 会 費 3,000円  
申 込 方 法 住所、氏名、メールアドレス、勤務先、  
懇親会参加の有無を明記して、E-mailま  
たはFAXで申し込んでください。  
申 込 先 forum@jotsugakkai.or.jp  
FAX 03-5405-3696  
\*申込受付の可否はメールでご連絡します。  
申 込 締 切 2006年11月6日(月)  
\*先着200名で締切ります。早めにお申込  
ください。  
照 会 先 財団法人 情報通信学会  
〒105-0001 東京都港区虎ノ門3丁目22-1  
秀和第二芝公園3丁目ビル  
TEL. 03-5405-1150  
FAX. 03-5405-3696  
E-mail : forum@jotsugakkai.or.jp

## 開催趣旨

通信と放送の融合はいま、拡大・深化しつつあります。伝送路や受信端末などのフレームとそれを支える技術は、融合をさらに推進する方向へ向かっています。放送コンテンツは通信ネットワーク上にも開放され、放送と通信の境界を越える、あるいは境界を押し下げる新しいビジネスが生れています。

この激流は今後どの方向へ進むのでしょうか？どこかに到達点があるのでしょうか？通信業界は、放送業界はどこに生き残りの道を見出し、新規事業者はどこに参入の道を見出すのでしょうか？そして視聴者は、融合の進展からどのような恩恵を受けるのでしょうか？

今年のフォーラムは、各界における通信・放送融合のトップランナーをパネリストにお迎えし、オールスターキャストで展開します。フレームとコンテンツの両面からケーススタディを積み上げて、今後のトレンドを探ります。どうぞ奮ってご参加ください。まだ見ぬ未来を一緒に探りましょう。

### 第1パネル・ディスカッション

#### 「通信と放送の融合・連携 ：フレームにおける可能性」

通信放送がどう融合・連携できるのか、受け手・送り手、伝送路、端末等、技術や枠組みの観点から議論します。

#### —議論展開—

1. 伝送路は本当に通信回線か？有線と電波の関係は？

- IPマルチキャストは技術的にどこまでOKか？
- 実際の普及という意味で、放送の“あまねく”を代替するのか？

2. 端末は本当にパソコンがオールマイティか？テレビはやがて消えるのか？
- PCは進化の果てにTVを飲み込むのか。別々の進化を辿り続けるのか？
  - PCによる動画視聴システム vs VOD対応のデジタルテレビか？
3. 通信放送融合のメリットは何か。
- 受け手にとって、どんなメリットがあるのか？全ての受け手を包括するのか？
  - 送り手にとって、どんなメリットがあるのか？融合推進の必然性はあるのか？

### 第2パネル・ディスカッション

#### 「通信と放送の融合・連携 ：コンテンツにおける可能性」

通信放送はどう融合・連携できるのか、コンテンツやビジネスを中心に議論し、今後を展望します。

#### —議論展開—

1. コンテンツにとっての放送デジタル化の意味
  - テレビ番組は変身するのか？
2. コンテンツにとってのブロードバンド普及の意味
  - 動画コンテンツの可能性は？
3. デジタル化・ブロードバンド普及によるメリットと課題
  - マスマーケティングの放送と特定層対象の通信とのビジネス上の融合は？
  - ビジネスモデルを探求する。